



# 学校だより 5月号

文京区立第一中学校 令和5年5月15日(月)

## 新 緑

校長 田島 佳子

「目には 青葉 山 ほととぎす 初ガツオ」

枯れていた木から黄緑色の若々しい葉が次々と伸びてくる季節になりました。少し郊外に車を走らせると森や林、山の景色が今までと違ってきます。春のふわっとした薄ピンク色の景色から、パリッとした緑の景色に変わってきます。耳を澄ますと森の中からほととぎすの音が聞こえてきます。思っているよりもとても小さい鳥です。声は聴けてもなかなか姿を見ることは難しいです。そして祖母の家があった千葉の勝浦では、毎年この時期になると「カツオ」です。朝市に行ってカツオを買ってきて、いつもとは違う包丁でガツガツと捌く祖母の後ろ姿を今でも覚えています。私の子供の頃の5月の思い出です。

そして、今、5月というと。

「夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉が茂る あれに見えるは

茶摘みじゃないか 茜だすきに菅(すげ)の笠」という茶摘みの歌を知っていますか。現在はほとんどが機械でお茶の葉を摘んでいるため、手摘みは、観光用と品評会の時だけに行われているようです。50年ほど前までは機械がなかったので、多くの人の手で摘んでいました。八十八夜とは立春から数えて88日目を指し、毎年5月2日ごろがこの日に当たります。八十八夜を過ぎると数日で立夏(りっか)を迎えます。(5月6日ごろ)暦の上では、夏なのです。昔はこのころにはお茶どころの丘陵では、お茶の葉を摘む人々の姿があちこちで見られたのでしょ。

次女が静岡県島田市の阪本に7年前に嫁いでいきました。そこは静岡の中でもとても美味しいお茶ができる場所なのですが、個人でやっているお茶農園ばかりなので、まだ、手摘みも少し残っているようです。特に日本最大の茶畑と言われる牧之原台地の東の端に位置した初倉のお茶は、なかなか地元の人でも新茶を手に入れにくいようです。早くから並ばないとならないとのこと。毎年、この時期になると「初倉のお茶いる?何袋?」とメールが来ます。この新茶に限らず、嫁いでからいろいろな美味しいお茶が届くようになり、それまでは、ペットボトルのお茶で十分だったのですが、休みの日には鉄瓶で沸かしたお湯を急須に注いでお茶を飲むようになりました。お茶ってこんなに味が違うし、淹れ方で変わるのだと実感しています。GWに次女の家を訪ねるのがこの7年間で行事のようになっています。新緑がもたらすさわやかな空気と景色で癒され、植物の持つ生きるエネルギーを感じて、力が沸いてきます。

茶畑と富士山と青い空を見ると「またこの季節がやってきたなあ」と思うのです。

「新しい葉を伸ばせ」と。



運動会 5月20日(土) へ向けた練習風景

全員リレー



学年種目



ダンス 一中魂



防災宿泊訓練 4月21日(金) から22日(土)



5組校外学習 4月27日(木) カップヌードルミュージアム



校長による道徳の授業1年 4月24日(月) 26日(水)

